

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 35号 平成23年7月

発行元 福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

第1回福島県農地集積団体連絡会議が開催されました。

平成23年7月11日(月)郡山市の福島県ハイテクプラザにおいて、福島県と当公社の主催により、福島県、市町村、市町村農業委員会、農地集積円滑化団体等、約200名の関係者が一同に介して、「福島県農地集積団体連絡会議」を開催いたしました。

今回の会議は、地域における担い手不足や農地の遊休化が深刻な問題となっている現状において、農地保有合理化法人と農地利用集積円滑化団体の連携強化を図り、本県の農地利用集積を強力に推進することを目的としております。



(挨拶をする羽田理事長)

会議に先立ち、福島県農業担い手課の浅野課長並びに当公社の羽田理事長より挨拶がありました。続いて、福島県農地集積団体連絡会議が行われ、

当公社須田審査役が座長となり、平成23年度当連絡会議の事業計画について、並びに関係機関・団体における連携の考え方について、福島県農業担い手課、JA福島中央会、当公社など各機関・団体より説明されました。

引き続き、農地の面的集積に係る事例紹介が行われ、猪苗代町長坂地区の総括委員長 黒澤 孝さんから、過去の災害からの復興と「一集落一農場」実現への歩みを通して、地域の農業振興のため農地の集団的な利用調整の必要性について、講演がありました。

最後に、当公社より「震災等に係る平成23年度賃借料等の取扱い」について説明を行いました。特に出席者からは原子力災害に関して、賃借料の減額請求や不可抗力の範囲などについての質問が飛び交うなど、参加者の震災に対する関心の高さが感じられました。

午後からは、福島県の主催により、被災農業者の就農支援のための関係機関連携会議が行われ、農業委員会による農地のあっせんや被災農業者の就農支援策等について、真剣な論議が行われました。

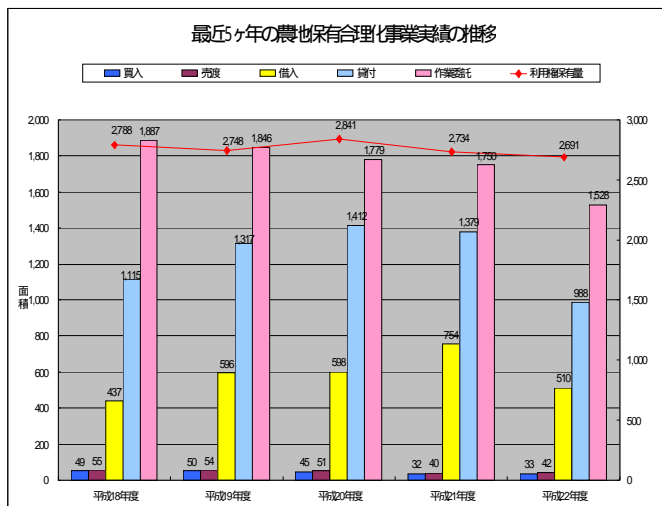


平成22年度の事業実績

平成22年度の農地保有合理化事業の実績は次のとおりです。

◆買入	33	ヘクタール
◆売渡	42	ヘクタール
◆借入	510	ヘクタール
◆貸付	988	ヘクタール
◆作業受委託	1,528	ヘクタール
●利用権保有量	2,691	ヘクタール

農産物販売価格の低迷などから担い手農業者の規模拡大意欲が減退し、事業実績が減少傾向にあります。このような状況の中、3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により、地元調整が整い農用地利用集積計画に同意したものの、農業委員会が開催されず利用



権が設定されない地区などがあったことから、実績が減少しました。これらの地区を含め、公社が支援する賃貸借及び農作業受委託契約の約3分の1の農地が被災しており、今後の事業への影響は大きいものと懸念しております。

平成23年度賃借料

及び農作業料金の取扱について

この度の大震災により被災した農地に係る今年度の賃借料及び農作業料金の公社の取扱方針を定めました。

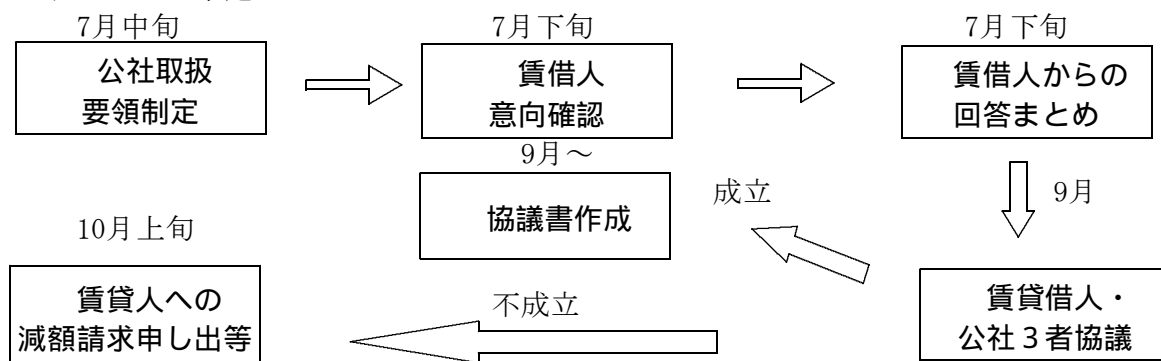
「5月19日付け農業公社のお知らせ第1報」として、関係者等へ緊急にお知らせをしたところですが、今後の具体的な手続きについては、次の通りです。

(※第1報の詳細は、公社ホームページに掲載)

<手続きの概要>

- (1) 賃借料の支払いに関し、賃借人の意向をもとに原則として、農業委員会の立ち会いを受けて賃借人、賃貸人、公社の3者で協議します。
- (2) 協議成立 → 協議書を作成し、協議書に添って手続きをします。
- (3) 協議不成立 → 民法609条による減額請求を賃貸人へ行い、その請求に添った協議や手続きを行います。
- (4) 農用地利用改善組合等の調整により農地集積を実施した「集団的土地利用調整地区」については、原則地区単位での一括による取り扱いを基本とします。

今後のスケジュール予定



総務課

当社の理事・監事及び評議員をご紹介します。(平成23年7月1日現在)

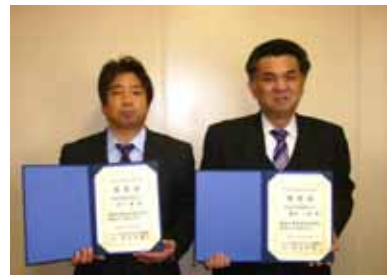
1. 理事及び監事

2. 評議員

役職名	氏名	職名	役職名	氏名	職名
理事長	羽田 徳一	常勤	会長	熊本 俊博	福島県農林水産部政策監
理事	鈴木 義仁	福島県農林水産部長	副会長	川上 雅則	JA福島中央会参事
〃	庄 條 徳一	JA全農福島県本部運営委員長	評議員	安 藤 正	福島県農林水産部参事兼農林総務課長
〃	富 塚 宥 暁	田村市長〔福島県市長会〕	〃	浅 野 裕 幸	福島県農林水産部農業担い手課長
〃	浅 和 定 次	大玉村長〔福島県町村会〕	〃	櫻 田 浩 二	福島県農林水産部農村計画課長
〃	但 野 忠 義	福島県酪農業協同組合代表理事組合長	〃	馬 場 恒 郎	福島県町村会常務理事兼事務局長
〃	若 松 昭 雄	福島県土地改良事業団体連合会会長	〃	田 中 亮	福島県農業会議事務局長
〃	立 花 正 清	福島県農業会議副会長	〃	渡 辺 強	福島県土地改良事業団体連合会農村振興部長
監 事	長 島 俊 一	JA福島中央会常務理事	〃	小 川 孝	会津若松市農業委員長〔農業委員会〕
〃	尾 形 克 彦	公認会計士	〃	安 齋 孝 行	福島県指導農業士会長

「農地保有合理化推進士」誕生

平成23年3月22日、当社の藤田一治主任主査及び宍戸隆主任主査の2名が「農地保有合理化推進士」として、社団法人全国農地保有合理化協会から認定されました。全国では64名、わが社としては平成18年に続く認定で、総勢5名の推進士となります。



左 宍戸主任主査、右 藤田主任主査

今月のコラム

突然の知らせ

それは突然の訃報の知らせでした。

昨年12月まで一緒に仕事をしていた仲間のご主人からのメールでした。

彼女は岩手県宮古市の出身で出産のために帰省し、3月2日に無事女の子を出産し、退院直後にあの3月11日の東日本大震災の犠牲になり亡くなったとの連絡でした。

福島からご主人が駆けつけた時、津波に家は流され、ようやく見つけた家の2階部分から赤ちゃんのおむつとミルクの入ったバックを見つけましたが、二人の姿は見つけられなかったそうです。

地震から9日目、流された家の1階部分から子

供をしっかりと抱えうずくまっている二人が発見されました。

逃げる準備をしていたところへあまりにも早く津波が来て逃げるができなかったようです。

多くの仲間が震災後安否を気遣いメールや電話をしていましたが、連絡がつかず、無事を信じて連絡を待っていた矢先の知らせでした。

ご主人のメールの最後には「生きていればこの生活であり、人生ですので大切に生きてください」とありました。

そして、職場を去るときに「福島に帰ったら赤ちゃんの顔を見せに来ますね」と言った時の幸せいっぱいの彼女の笑顔が忘れられません。

M・Y

— 利用者の声 大震災を乗り越え、福島の農業を未来につなぐために —

いわき農業青年クラブ(県連事務局長) 助川 成光

私は、いわき市錦町でブランド名「親バカトマト」を施設栽培しています。経営内容は、長期多段(収穫11月～7月下旬)の土耕養液栽培により、45aを父・母・私・妻・パート従業員3名で管理しています。出荷形態は、共選出荷・自営直売所・ネット販売(自営webショップ)等です。

今回の東北地方を襲った大震災により、多大な人名が犠牲になりました。私の家は、海岸から直線距離で約350mですが、海岸線の地形等の様々な条件が重なり、奇跡的に少ない被害で済みました。

被害状況は、近くの蛭田川が津波の逆流で多少溢れたのと、液状化により施設内に地下水と砂が上がった程度でした。

地震直後は、近くの工場の爆発と揺れの大きさで身動きが取れませんでした。すぐに子供を保育園に迎えに行き、妊婦の妻と家族の避難を確認後、消防団活動に合流しました。翌日、被害地区の惨状を見て愕然とし、涙が出る思いでした。数日間は生業そっちのけでしたが、トマトが枯れることもなく安堵しました。しかし、トマトの生育は、揺れによるストレスと液状化による毛細根の切断、度重なる余震による根の修復の遅れで樹勢が弱まり、免疫が低下したところに病気が入り、収量が低下しました。

また、原発事故が追い打ちをかけるように、4kg2,200～2,300円の通常相場が450円という落胆的

な価格になりました。

しかし、いわき市

は早い段階から「がんばっぺいわきオールジャパン」を立ち上げ、農産物のPRに乗り

出しました。また、以前から

徐々に力を入れてきたwebショップが、農産物を直接買える農家ということで話題となり、通販の伸び率が向上してkg単価の底上げにつながりました。

そして、何より有り難かったことは、全国のお客様から多くの応援メッセージと励ましの言葉を頂いたこと、ツイッター等での口コミが大きな励みと頑張ろうという意欲の源になりました。

今後、福島県の農家は悲観的な方向ではなく、前向きに地道な活動になると思います。安全・安心と胸を張って言えるように栽培管理を徹底し、消費者の信頼を裏切らないよう努力していかねばならないと考えています。

福島県農業青年クラブ連絡協議会の活動としては、PR活動等を通して多くの消費者と直に会い、農家の顔が見える活動をしていくことで、福島の農産物の信頼を一歩ずつ築いていくことが大切です。そして、この地道な活動の先に福島の農業の明るい未来があると思います。



編集後記 3月11日、4月11日震災などの影響で、最近「11」と言う数字がちょっと敬遠されがちですが、プロ野球の世界での「11」は、選ばれた者しか手にできないあこがれの数字なのです。野球のエースナンバーといえ「18」ですが、「11」はそれに並ぶ、また最近はそれを超えるぐらいのナンバー(背番号)となっています。現役では、いまや「日本のエース」とも言われる日ハムのダルビッシュ有、アジア人最速161km/hの記録を持っているヤクルトの佐藤由規、昨年早稲田大3人衆の一人としてドラフト1位指名の広島福井優也、またOBでは、初の天覧試合で巨人を相手に力

投した阪神の村山実、11試合連続完投勝利の日本記録保持者でもある巨人の斎藤雅樹など、有名選手がたくさんいます。

「11」にこだわり、またその重圧にも負けずに頑張る懸命なプレイをこれからも期待し、一野球ファンとして今後も応援し続けていきます。(H. T)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8F

財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>